

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	あいの里有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成24年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交流館があることで、各種演芸ボランティア団体の慰問が再々あり、利用者とも顔なじみの関係を構築でき、楽しみにつながっている。また、そうした時には、地域の方にも声をかけ、一緒に楽しみ交流もできる。家族との信頼関係を築き、お互いが協力し合っ、利用者を共に支えていると実感している。広い菜園では、季節の野菜を栽培し、新鮮な野菜をふんだんに食卓に載せることができるのも「あいの里」ならではの自負している。開設6年を経たが、今後も研鑽を積み地域の福祉向上に貢献していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者、職員は事業所の理念である「みんなが一つの家族。助け合い、支えあい、励ましあい、温かな、明るい、笑顔のある家庭をみんなで築きます」を一貫して実践し、利用者や家族にとってより良い事業所として信頼関係を構築している。また、地域交流を図るため、事業所の交流館を活用し積極的に地域のボランティア等の受け入れを行っている。全ての職員のケアの質を向上させるため、研修に参加しやすい体制をとっており、南予地区の研修参加優秀事業所として表彰も受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいの里

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 真田 ハル子

評価完了日 平成24年11月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホーム内の目に付きやすい場所に、数箇所貼付しお互いに意識しながら実践している。	
			(外部評価) 年度初めに職員全員が個人の目標を立て、ユニットの食堂に掲示し意識して日々の業務にあたっている。年度末には、立てた目標の振り返りをして次年度に活かしている。また、「みんな一つの家族です」を利用者にも意識して過ごしてもらえるように、新しい入居者があるときには事前に話し合い、共に仲良く暮らしていけるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設当初から自治会に加入し、共同作業や毎月の常会には代表者が出席している。地方祭には、牛鬼やお多福の訪問、亥の子には子供達の訪問がある。地元のバラ大師の縁日には利用者さんと参拝し、地元の方たちとの交流を深めている。町内外からの演芸ボランティアも多くあり、ご近所へも声をかけ一緒に楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 開設時から自治会に加入し、地域との交流に積極的に取り組み、利用者が入居前と同じように、地域とつながりながら暮らしていけるように支援している。交流館を増設したことで、地域のボランティアの受け入れ等を積極的に行い、イベント時には近隣住民にも声かけし交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 学生の職場体験や演芸ボランティアなどを通して交流することにより、認知症の理解して頂き支援を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は定期的開催している。利用者の状況、サービスの状況、課題等を報告し、適切なアドバイスを頂きサービス向上に役立てている。委員さんは、真剣に討議して頂き、行事等にも参加協力を頂いている。今年度は愛媛で開催した「四国交流フォーラム」にも、運営推進会議として参加してもらった。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、事業所の状況や課題等を報告し、参加者の意見をサービス向上に活かしている。今年度は、地域の消防団や駐在所関係者に運営推進会議に参加してもらうことを目標として取り組んだが、参加には至らなかった。引き続き会議への参加を依頼する予定にしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者とは、本庁、支所共に気軽に何でも相談し易い関係を築いている。支所の担当者は運営推進委員としても、アドバイスや協力を頂いている。介護相談員の訪問も年4回受け入れ、相談員からは、現場でのアドバイスや事後報告書を、市の担当者を通して頂いている。</p> <p>(外部評価) 市の介護保険課担当者には運営推進会議に毎回参加してもらっており、運営や実情を話し合える関係を築いている。介護相談員の訪問を積極的に受け入れることで、利用者の気持ちを把握し、サービス向上に役立てている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみで、居室には鍵はない。職員は研修会にも参加し、身体拘束の意味を十分に理解し、日々のケアにあたっている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、研修や職員会で勉強し、職員全員が正しく理解できるよう努めている。また、身体拘束につながる恐れのある行為等は日頃から注意し合っており、気になることは職員会でも取り上げてより良い対応に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待はありえないが、不適切な言葉や言動を見かけたら、その場で気付いた職員が注意するようにして、利用者に不安や不快感を与えないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は包括支援センターの運営委員をしており、日頃から連携も十分にとれ、制度も理解しているが、職員は実際にこの制度を利用しているケースがないので、勉強会はしても十分に理解はできていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居申し込みや入居契約時に十分な説明を行っている。改定事項が生じた場合は、十分な説明を行い、納得の上同意を頂いている。家族会や面会時等にも随時説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や家族会、ケアプラン更新時等で意見や要望を聞くようにしている。また、身体状況や受診時の病状報告等を適宜行っている。担当者が毎月家族にお便りを書き、利用者の様子をお知らせしており、家族から感謝の言葉をかけて頂いている。この取り組みは3年を経過した。 (外部評価) 年1回敬老会を兼ねた家族会を開催し、職員が作った食事とカラオケ等のイベントで、利用者と家族が楽しい時間を過ごしている。代表者や管理者、職員も家族等と交流し、普段から意見を言いやすい関係構築に努めている。	家族会は恒例の行事として定着しており、多くの家族が参加し楽しみにしている。今後、家族等の交流を一層活発にして、率直な思いや要望をさらに話し合える関係づくりに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会を開催しており、代表者も必ず参加して、職員からの意見や要望を聞き、改善できることは速やかに対処している。意見の出しやすい職場であり、取り入れてもらえる職場でもある。	
			(外部評価) 代表者と管理者は、利用者と常に接している職員の意欲を大切に考えて、積極的に研修参加や資格取得ができるようバックアップしている。また、開設からの管理者は今年度末で退職となるものの、職員が安心して業務に専念できるような体制に配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況は代表者が十分把握されており、職員の福利厚生についても、各自が向上心を持って働けるように努められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤の区別なく希望する研修には参加でき、参加費の負担、勤務扱い、時間給支給、交通費の支給など、研修に参加し易い体制をとっている。研修参加人数の多さでも南予地区でトップで表彰を3回連続して受けた。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の主催する「相互研修事業」にも毎年参加し、他施設との交流を図っている。各種研修会や運営推進会議を通じての交流もできている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に本人と面接を行い、また、家族や関係者から情報を収集して、本人が安心して生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、面会時に時間をとり、十分話を聞くようにしている。家族がはじめから遠慮なく意見の出しやすい雰囲気心がけ、理念の説明も必ず行っている。ホームの理念が信頼関係を築くことにも役立っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族が先ず何が必要かを十分話し合い、状況を見極めながら対応していく。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれの利用者に出れること、出来そうなことを一緒にしながら、コミュニケーションを図り、利用者が自分も人の役に立っていることが自覚できている。適材適所の役割分担ができています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の担当を決め、毎月のお便りで近況を報告し、より良い関係を築いている。面会時には十分に話ができる場をつくり、また、家族にしかできない支援をお願いするなど、協力を得ながら、本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前からかかりつけていた医療機関を受診することにより、主治医や看護師などと馴染みの関係を継続することが、本人家族の安心につながっている。地域行事や通院により、馴染みの人との出会いや交流も続けることができています。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が地元出身で、馴染みの人や場所との関係が継続しやすい環境にある。入居後の利用者の様子を馴染みの友達や知人に知ってもらえるように、ホーム便りを地域のいろいろな場所に配布している。毎月の利用料は遠方の家族を除き、事業所に支払いに来てもらい交流の機会としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者にも時々、理念の「私たちは家族です」を話している。日中はすべての方がリビングで過ごし、お互い助け合って暮らしている。時には小さいさかいもあるが、すぐに機嫌が直るのは、家族となった所以かな？	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長期になり、退居したり、特養へ入所された後も訪問したり、家族と出会った時には様子を聞くなど関係を大切にしている。葬儀に弔電を送ったり、参列することもある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、ケアプラン更新時などで、本人の思いや要望を聞き、できる限り添えるように努めている。担当職員がより身近な相談者の役割も担っている。担当者を中心にして、気づきや情報を全職員が共有して、より良いケアに努めている。（介護記録、申し送りノートを活用）	
			(外部評価) センター方式の書式を使用して、利用者のできることを、できないことを把握し、支援の方法の再確認を行っている。健康管理ノートや介護記録、申し送りノートにより、利用者の思いや意向などの情報を共有している。また、普段から利用者寄り添う介護に努めて、思いや要望を聞き逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人からの聞き取り、関係者、家族からの情報、親戚や知人、友人の面会時等で状況を把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録や申し送りで、個々の状態を把握し、それぞれが出来る力を活かして生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランの作成や見直しは、本人家族の意向を聞き、プランに反映している。身体状況の変化に応じてモニタリングを行的確な対応が出来るように努めている。  (外部評価) 介護計画は、3か月毎に担当職員が評価し職員会で意見を出し合って、ケアマネジャーが作成している。家族には毎月、担当職員が状況報告をしている。普段から計画への要望等について、家族と話し合う機会を持っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録や申し送り、引継ぎ等で、個人の暮らし方や身体状況を把握し、職員間で情報を共有しながら実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、かかりつけ医の受診、町外の専門医の受診、理美容室の利用など個々の希望に添った支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、各種ボランティア、高校生、地域の子供達、運営推進委員、民生委員、介護相談員、生活支援員等多方面からの支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前から利用しているかかりつけ医で身体状況の把握が継続して出来、本人家族の安心につながっている。 通院介助は概ね管理者が行っており、主治医との連携は十分にとれている。受診状況を個人記録、申し送りで職員が確認している。適宜家族に状況を報告し、離れている家族も情報を知ることによって安心されている。	
			(外部評価) 利用者のほとんどは、入居前からのかかりつけ医の受診を継続しており、職員が通院支援を行っている。管理者は、地域の病院の医師や看護師とも顔なじみの関係ができており、情報交換もスムーズに行うことができている。個別介護記録に受診記録を記入し、申し送りで職員は情報を共有している。インフルエンザの予防接種は毎年行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師は、看護面での気づきや助言を介護職に伝え、お互いが情報を共有しながら利用者の健康管理に努めている。技術的な指導も実践を通して行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院した場合は、毎日のように面会し状況把握に努めている。主治医や病棟看護師に治療状況や退院の見通しなどを聞き、院内カンファレンスにも参加し、早期退院に向けて院内の地域連携室の看護師とも連携している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に状態が悪くなった場合、ホームでの対応には限りがあることを、家族に伝えている。また、口から食べ物が食べられなくなった場合はどうするか？なども早い段階で家族で相談して頂くように話している。寝たきりになり、ホームでの生活が難しくなっても、次の受け入れ先が決まるまでは対応することも伝えてある。看取りはまだ行っていない。	
			(外部評価) 近所の医療機関と24時間医療連携をしている。看取り対応マニュアルは作っているが、経験はない。重度化については、口から食事が摂れない状態になると医療機関に入院となることを、入居時に家族に確認している。入院1か月以上で一度退居になるが、退院後に利用者が入居できる状態であれば優先的に受け入れるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年消防署の救急救命士の指導で3時間の「普通救命講習」を9名の職員が受講し、応急手当や初期対応、AEDの使い方を学んだ。残りの職員は来年度に受講する。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 義務付けられている年2回の避難訓練の他、ホーム単独の避難訓練を年3回程度実施し、所定時間内(9分)に避難できるように訓練している。しかし、2階の方が重度化しており、職員だけの避難には限界があるため、近所の方にも避難訓練に参加して頂き利用者の様子を見て頂いた。消火栓の設置は申請済みだが、設置は未定。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練を近所の方の協力を得て実施し、事業所や利用者の状況を理解してもらった。緊急時の連絡網には近所の方も加わっている。避難経路は廊下の両側に整備されている。スプリンクラー等設備点検も年2回行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉遣いにも気をつけている。入浴や排泄介助においても、尊厳と安全面に配慮している。居室は個人の家としての認識を持って対応している。 (外部評価) 職員の年間目標にも「利用者に寄り添った支援をする」を掲げて利用者本位のケアに努め、一人ひとりの人格や尊厳を大切にプライバシーに配慮している。また、ホーム便り等に利用者の写真を掲載する場合は、利用者や家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が出来るだけ自己決定や思いを伝えることが出来るように、待つゆとりを持って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを尊重し、自発的にできるような支援を心がけている。何事も強制はしない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時やイベント（家族会等）時の洋服選び、身支度、理美容についても希望を聞き支援している。身の回りの買い物なども可能な限り本人を伴って行くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話や収穫、料理の下ごしらえ、食後の片付けなど、各人の出来る力を活かして、一緒に食事を楽しく食べることを支援している。	
			(外部評価) 地元出身の利用者や職員が多いため、職員は利用者の食べ慣れた味付けがよく分かり配慮できている。献立はユニット毎に利用者の希望を聞いて立てている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事ができるよう支援している。介助の必要な利用者には、様子をみながら根気強く声かけし、自力で食べれるようになったケースもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取状況、水分摂取量は毎日チェックし、把握している。食事は残さず食べられているが、水分量は少な目の人もあり、こまめな水分補給に気をつけ、飲料もあれこれ工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に必ず歯磨きや義歯洗浄を行えるようにしている。不安な人については傍について支援する。歯のない人も嗽をして口の中に残渣を残さないように気をつけている。義歯は定期的にポリドント洗浄を行い、尚且つ、口臭の強い人に対しては複数回消毒している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員トイレで排泄している。その人に応じて、布パンツ、パット、紙パンツ、夜のみオムツと使い分けて、ごみ減量と経済面でも気をつけている。排泄記録を元にさりげなく、トイレ誘導を行い、紙パンツから布パンツへ移行できた人もいる。	
			(外部評価) 一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、自立に向けて利用者に合った個別支援を職員全員で取り組んでいる。「昼だけはパンツにしよう」を掲げて支援し、トイレでの排泄に成功した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適切な水分補給、食物繊維の摂取、散歩、体操など行っているが、下剤を服用している人は多い。下剤の管理調整を個人別に細かくチェックし、便秘や下痢にならないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 当日の本人の体調や希望を聞きながら、一人ずつゆっくり入浴を楽しんでもらえるように、プライバシーと安全面で気をつけている。入浴は1対1でのコミュニケーションの場としても捉えている。入浴を拒否されることも全くない。	
			(外部評価) 毎日、午後3時から4～5名が入浴できるよう支援している。水曜日は行事のため休みにしている。利用者が安心して楽しく入浴できるようコミュニケーションを積極的に取るよう努めている。また、利用者の本音の気持ちを聞くことができる機会と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の明かりの調節、冷暖房の管理、寝具の調節を適宜行い、各人のペースで安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の効果や副作用が、分る説明書を個人ファイルで確認できる。薬の変更は個人記録と申し送りですべての職員がわかるようにしている。誤薬のないように、その都度名前を確認し、完全に服用できたことを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが持てる力を発揮できている。掃除、洗濯物たたみ、畑の草引き、野菜の収穫、花の水やり等日常生活の役割を分担し職員と共におこなっている。散歩や買い物、通院で昔の記憶を思い出され外出が良い刺激になっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて外に出るようにしている。庭先での日向ぼっこ、車椅子での散歩、地域内のイベント参加、他施設でのイベント参加、行楽シーズン春と秋の全員総出の外出ドライブ、かまぼこ板の絵展覧会鑑賞など機会をとらえて出来るだけ出かけられるように支援している。 (外部評価) 事業所は豊かな自然に恵まれた見晴らしの良い高台にあり、日常的に戸外の散歩ができるよう支援している。車いすの利用者も一緒に出かけている。年間行事計画を作成し、ドライブなどはユニット単位で出かけている。外気浴を兼ねて、菜園で野菜や草花を育てて収穫することが、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が管理している。小額を持っている人もいる。時々、欲しいものがあれば、預かっているお金と一緒に買い物に行き、欲しいものを自分で選んでもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会が多いので、手紙や電話のやり取りはない。自分で電話をかける人も少ない。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 明るく清潔で、温度、湿度、換気、消臭などに気を配りながら気持ちよく過ごせるようにしている。行事等の写真を貼ったり、季節の花を活け生活感を感じられるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者や職員の安全面と使いやすさに配慮した住宅改修をしており、居心地よく過ごせる共用空間となっている。館内全体に掃除が行き届き、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。交流館も増設して、利用者と地域住民の交流の場となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファに座る位置、食堂の椅子、それぞれ思い思いの気に入った場所がある。話をする人、テレビを見る人、居眠りをする人とそれぞれに寛いで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には、使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。仏壇を持参されている方には毎朝、お茶湯の支援もおこなっている。誕生日の写真や家族の写真を飾って、大切な人を忘れないように、落ち着いて生活できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室は陽当たりがよく、窓から外の風景が楽しめて季節感を感じて生活できる。備え付けのクローゼットがあり整理整頓しやすい。また各担当職員が居室の管理をしており、常に清潔に保たれている。畳を入れている居室もあり、利用者の身体状況や安全面に配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室、廊下、トイレ、浴室、玄関、非常階段等には手すりを設置して、安全面と身体機能の維持に配慮している。トイレや居室には、その人の目線に合わせた目印をつけ、場所がわかるようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	あいの里有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成24年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交流館があることで、各種演芸ボランティア団体の慰問が再々あり、利用者とも顔なじみの関係を構築でき楽しみにつながっている。また、そうした時には、地域の方にも一声かけて一緒に楽しみ交流もできる。家族との信頼関係を早期に築き、お互いが協力しあって、利用者を共に支えていると実感している。広い菜園では、季節の野菜を栽培し、新鮮な野菜をふんだんに食卓に載せることが出来るのも、「あいの里」ならではの自負している。開設6年を経たが、今後も研鑽を積み地域の福祉向上に貢献していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者、職員は事業所の理念である「みんなが一つの家族。助け合い、支えあい、励ましあい、温かな、明るい、笑顔のある家庭をみんなで築きます」を一貫して実践し、利用者や家族にとってより良い事業所として信頼関係を構築している。また、地域交流を図るため、事業所の交流館を活用し積極的に地域のボランティア等の受け入れを行っている。全ての職員のケアの質を向上させるため、研修に参加しやすい体制をとっており、南予地区の研修参加優秀事業所として表彰も受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 松本 光枝

評価完了日 平成24 年12 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者さん、職員は「一つの家族」という理念のもと、仲良く暮らしている。「一緒に何かをする」を心がけている。	
			(外部評価) 年度初めに職員全員が個人の目標を立て、ユニットの食堂に掲示し意識して日々の業務にあたっている。年度末には、立てた目標の振り返りをして次年度に活かしている。また、「みんな一つの家族です」を利用者にも意識して過ごしてもらえるように、新しい入居者があるときには事前に話し合い、共に仲良く暮らしていけるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣のお祭りや行事には、ボランティアさんの協力を得ながら、参加したり訪問して頂いたりしている。	
			(外部評価) 開設時から自治会に加入し、地域との交流に積極的に取り組み、利用者が入居前と同じように、地域とつながりながら暮らしていけるように支援している。交流館を増設したことで、地域のボランティアの受け入れ等を積極的に行い、イベント時には近隣住民にも声かけし交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域のボランティアの慰問や学生の体験学習など、積極的に受け入れ、交流することで理解していただくよう働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を開催している。毎回運営委員さんには、気持ちよく参加頂いており、意見交換もできている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、事業所の状況や課題等を報告し、参加者の意見をサービス向上に活かしている。今年度は、地域の消防団や駐在所関係者に運営推進会議に参加してもらうことを目標として取り組んだが、参加には至らなかった。引き続き会議への参加を依頼する予定にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者との連携は良好である。管理者が市の地域密着型サービス運営推進委員をされており、情報を知り相談事なども気軽に出来ている。	
			(外部評価) 市の介護保険課担当者には運営推進会議に毎回参加してもらっており、運営や実情を話し合える関係を築いている。介護相談員の訪問を積極的に受け入れることで、利用者の気持ちを把握し、サービス向上に役立っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部の研修会には、交代で参加しており、内部での勉強会も行い、職員は拘束をしないケアを心がけている。両サイドの非常口は、転落の恐れがある場合のみ施錠する。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、研修や職員会で勉強し、職員全員が正しく理解できるよう努めている。また、身体拘束につながる恐れのある行為等は日頃から注意し合っており、気になることは職員会でも取り上げてより良い対応に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についても、外部研修に参加して勉強し取り組んでいる。日々の生活の中で、言葉の虐待はないか気をつけ、不適切な言葉は注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に、日常生活支援を受けている方があり、関係者と連絡を取り合っている。内部研修でも権利擁護や成年後見制度について学習した。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に時間をとって説明を行い納得を得ている。いつでも不安なことや心配事など気軽に相談できるように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や担当からのお便りを通じて、意見や要望を聞くようにしている。介護相談員さんにも一役かかって頂いている。  (外部評価) 年1回敬老会を兼ねた家族会を開催し、職員が作った食事とカラオケ等のイベントで、利用者と家族が楽しい時間を過ごしている。代表者や管理者、職員も家族等と交流し、普段から意見を言いやすい関係構築に努めている。	家族会は恒例の行事として定着しており、多くの家族が参加し楽しみにしている。今後、家族等の交流を一層活発にして、率直な思いや要望をさらに話し合える関係づくりに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会には、代表者も必ず出席されるので、意見や提案、要望など率直に述べる事が出来、運営に反映させている。  (外部評価) 代表者と管理者は、利用者と常に接している職員の意欲を大切に考えて、積極的に研修参加や資格取得ができるようバックアップしている。また、開設からの管理者は今年度末で退職となるものの、職員が安心して業務に専念できるような体制に配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人員の移動があり、ベストでない状況の時もあったが、ユニットを越えてスタッフが一丸となって頑張っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修は年間スケジュールを立て、全員が参加できている。今年度は自社勉強会は出来なかったが、必要なことは職員会で伝えている。専門書の購読、購入も行い、自主勉強に役立てている。個々が資格取得の勉強にも取り組んで、成果も出ている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種研修会、相互研修等を通じ交流する機会をつくっている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居されたら、早期にセンター方式を活用しながら、今までの暮らしぶりや本人の意向を聞き、本人が安心できる関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当者が毎月家族にお便りを書き、意見や要望を伺うようにしている。面会時にもゆっくり家族の話を聴きよい関係を築くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) どのような支援が必要か、本人、家族と十分に話し合い、スタッフ間の意見も取り入れ対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、生活のパートナーとして、日々支えあい助け合い、励ましあってよい関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の担当を決め、毎月のお便りで近況を報告し、より良い関係を築いている。面会時には十分に話ができる場をつくり、また、家族にしかできない支援をお願いするなど、協力を得ながら、本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や遠くにいる娘たちが、本人の好きな食べ物を用意して来られ、一緒に食べられることもある。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が地元出身で、馴染みの人や場所との関係が継続しやすい環境にある。入居後の利用者の様子を馴染みの友達や知人に知ってもらえるように、ホーム便りを地域のいろいろな場所に配布している。毎月の利用料は遠方の家族を除き、事業所に支払いに来てもらい交流の機会としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや体操、軽作業を通じて、支えあい、助け合いが できている。仲良く会話している場面が良く見られ る。弱い立場の人を気遣って声をかけて下さる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、家族やケアマネ、転居施設に十分な情報 を提供している。転居された施設や入院先の病院を訪 ねることもある。葬儀にも参列することがある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 月1度の職員会で話し合ったり、カンファレンスで担 当者が中心になり、本人家族の意向を確認しながら検 討している。	
			(外部評価) センター方式の書式を使用して、利用者のできるこ と、できないことを把握し、支援の方法の再確認を 行っている。健康管理ノートや介護記録、申し送り ノートにより、利用者の思いや意向などの情報を共有 している。また、普段から利用者寄り添う介護に努 めて、思いや要望を聞き逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査、担当ケアマネ、サービス事業所か らの情報や面接時の家族、友人、知人からも話を聴き 情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、本人が拒否しないかぎり、出来る ことは一緒に行っている。体操、散歩なども出来る範 囲で身体を動かすことが出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで話し合い課題を提起している。状況に変化があれば、その都度見直し直ちに申し送り、より良い介護ができるように努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、3か月毎に担当職員が評価し職員会で意見を出し合っており、ケアマネジャーが作成している。家族には毎月、担当職員が状況報告をしている。普段から計画への要望等について、家族と話し合う機会を持っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の記録は主に日勤、夜勤者が書いているが、常に利用者の状況を把握できるように努めている。気づきや体調変化など申し送りで情報の共有に努め、介護計画の見直しに活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者の希望に添った、外出支援、かかりつけ医の受診など行っている。買い物なども同行や代行で希望に添えるようにしている。選挙等にも対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域住民、各種ボランティア、学生、子供達、民生委員、介護相談員等の協力支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人家族が希望される病院を受診している。町外への 受診も家族に代わり行い、主治医との連携も十分に とっている。	
			(外部評価) 利用者のほとんどは、入居前からのかかりつけ医の受 診を継続しており、職員が通院支援を行っている。管 理者は、地域の病院の医師や看護師とも顔なじみの関 係ができており、情報交換もスムーズに行うことがで きている。個別介護記録に受診記録を記入し、申し送 りで職員は情報を共有している。インフルエンザの予 防接種は毎年行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は週1回勤務し、個々の利用者の体調管理行っ ている。看護面からの気づきや適切なアドバイスを受 けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院した際には、こまめに病室を訪問し、本人を元気 づけ、病棟看護師との連携をとり、早期退院に向け て情報交換を行っている。洗濯物などの支援も行っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現段階では看取りは難しいが、家族や本人の意向を確 認しながら、終末期に向けてできることを支援してい きたい。	
			(外部評価) 近所の医療機関と24時間医療連携をしている。看取 り対応マニュアルは作っているが、経験はない。重度 化については、口から食事が摂れない状態になると医 療機関に入院となることを、入居時に家族に確認して いる。入院1か月以上で一度退居になるが、退院後に 利用者が入居できる状態であれば優先的に受け入れる ようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) この秋職員の半数が普通救命講習（3時間の講義、実技演習）を受講した。残りの職員は来年度に受講する予定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年間を通して定期的に避難訓練を実施している。夜間緊急連絡網の稼働状況も確認した。避難訓練に近所の方も参加してもらった。	
			(外部評価) 夜間を想定した避難訓練を近所の方の協力を得て実施し、事業所や利用者の状況を理解してもらった。緊急時の連絡網には近所の方も加わっている。避難経路は廊下の両側に整備されている。スプリンクラー等設備点検も年2回行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を大切に、年配者を敬うような言葉かけに気をつけている。	
			(外部評価) 職員の年間目標にも「利用者に寄り添った支援をする」を掲げて利用者本位のケアに努め、一人ひとりの人格や尊厳を大切にプライバシーに配慮している。また、ホーム便り等に利用者の写真を掲載する場合は、利用者や家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人のやりたいことや望むことが叶えられるよう支援している。普段から会話することで、希望や思いを表出できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各人のペースを大切に、希望にそって支援するようにしている。(戸外の散歩、縫い物、ぬり絵等)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好きな衣服選びや化粧品の購入、理美容室の利用など、おしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ホームの菜園の野菜とり、野菜の皮むきなどの下準備などして頂いている。片付け、下膳など出来る人が積極的にして下さる。皆好き嫌いなく毎日「おいしいね」と食べられている。	
			(外部評価) 地元出身の利用者や職員が多いため、職員は利用者の食べ慣れた味付けがよく分かり配慮できている。献立はユニット毎に利用者の希望を聞いて立てている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事ができるよう支援している。介助の必要な利用者には、様子をみながら根気強く声かけし、自力で食べれるようになったケースもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の摂取量を細かくチェックし気をつけている。少ない人には、代替りのものを用意するなど対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。自分で出来ない人は職員が援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄リズムを把握し、時間を見計らってトイレ誘導している。尿意の分らない人も日中はトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、自立に向けて利用者に合った個別支援を職員全員で取り組んでいる。「昼だけはパンツにしよう」を掲げて支援し、トイレでの排泄に成功した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の排泄チェック表で記録しながら、便秘にならないように注意し下剤管理を適切に行っている。散歩、体操等の運動を行い、飲水量、食物繊維がとれるように心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴が出来るように支援している。入浴時、リラックスできるよう会話し、身体の状態を観察している。入浴できない場合は、清拭を行い衣類の交換をして清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 毎日、午後3時から4～5名が入浴できるよう支援している。水曜日は行事のため休みにしている。利用者が安心して楽しく入浴できるようコミュニケーションを積極的に取るよう努めている。また、利用者の本音の気持ちを聞くことができる機会と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人に合わせて、室内の照明、冷暖房の調節を行っている。布団や敷物の調節も適宜、本人の意向を聞き調節している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋を綴じて、職員間で情報を共有できている。薬の変更も個人ファイルや申し送りで確認している。服薬はその都度確認し、誤薬のないように注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 元気な人は身体を動かす事、そうでない人は座って出来ることなどして頂き、日々の生活の中で役割分担や気分転換、楽しみにつながるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には散歩や日光浴を各人の状況に合わせて、支援している。地域の行事にも出かけたり、受け入れたり適宜地域との交流を行っている。家族が外出の支援をしていただく時もある。	
			(外部評価) 事業所は豊かな自然に恵まれた見晴らしの良い高台にあり、日常的に戸外の散歩ができるよう支援している。車いすの利用者も一緒に出かけている。年間行事計画を作成し、ドライブなどはユニット単位で出かけている。外気浴を兼ねて、菜園で野菜や草花を育てて収穫することが、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理のできる人は、小額を所持している。買い物など希望があれば、一緒に行ったり、職員が代行したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、電話をかけることもあるが、先方からの取次ぎが多い。家族と手紙のやりとりをされる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を絶やさないように飾ると利用者さんが喜ばれる。掲示物も季節ごと、行事ごとに貼りかえるようにしている。冬の乾燥には、加湿器を使用している。</p> <p>(外部評価) 利用者や職員の安全面と使いやすさに配慮した住宅改修をしており、居心地よく過ごせる共用空間となっている。館内全体に掃除が行き届き、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。交流館も増設して、利用者と地域住民の交流の場となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 日中テレビを見る人はソファ、軽作業や趣味をする人は食堂のテーブルと、それぞれが好みの場所で過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各自の居室には、行事の写真や家族が持参された写真を飾っている。自分が使い慣れた家具や品物を持ってきている人もいる。家族が居室の飾り付けをされることもある。</p> <p>(外部評価) 居室は陽当りがよく、窓から外の風景が楽しめて季節感を感じて生活できる。備え付けのクローゼットがあり整理整頓しやすい。また各担当職員が居室の管理をしており、常に清潔に保たれている。畳を入れている居室もあり、利用者の身体状況や安全面に配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ホーム内は安全に生活できるように、バリアフリーで適所に手すりをつけ、分りやすい目印などもつけている。福祉用具も適宜使用し、自立支援と安心安全な環境に努めている。</p>	